
デーモンキラーズ

ジャッカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デーモンキラーズ

【NZコード】

N5832K

【作者名】

ジャックカル

【あらすじ】

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そのため、世界中の科学者達がこの現状を開拓すべく、集結し、会議を開いた。

そこで、ある科学者が、「この世界を捨てて近年発見されたばかりの別世界へ移住すればいいではないか」と言った。

しかし、それはあまりにもリスクを伴つため、実験台としてその科

学者の息子を別世界に派遣する」と云つた。

そう、僕だ。

始まり（前書き）

僕は八神翔、父が科学者をやつていて、母が他界している。

父はずっと書斎で別世界の研究をしているため、家事全般は僕がやつており、学校へ行けず、父と話すこともあまりなかつた。

そのため、寂しさを紛らわせるため、様々な格闘技をやつていた。いつもと同じように鍛錬をしていると、突然父に書斎へ呼ばれた。僕は何事かと思って父の書斎へ行つてみると・・

父が僕に「別世界へ行つてくれないか」と、突然言つてきた。

「何で？」と父に尋ねてみると・・

父は「急激な人口増加で、土地が不足しているから、別世界への移住を考えている。だから、調査してきてほしい。」と言つてきた。

僕はこの世界に嫌気がさしていたため、了承した。

その後、出発の準備をし、再び父の書斎へ行つてみると、ブラックホールのような真っ暗な空間が広がっていた。

その後、父にこっちの世界に帰つて来るための入り口を作るリモコンのような装置を渡された。

そして、僕は別世界への期待を胸にひめ、ブラックホールのようない物に飛び込んだ。

始まり

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を開拓する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うこととした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたつて普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

別世界？（前書き）

周りを見渡してみると、そこには広大な森が広がっていた。
「本当にここが別世界なのか？」と自問自答してみるが、何も分からぬ。

そのため、探索をしてみることにした。

少し歩いてみると、背後から「ガサガサ」と草をかき分ける音がしてきましたため、後ろを見てみると、カマキリのような手を持ち、狼の顔をした二足歩行をした生物が現れた。

そして、突然襲いかかってきた。突然のことに同様し、避けることができず、腹を深めに切り裂かれ動けなくなってしまい、諦めたその時、横の茂みから、「ファイヤーアロー」という声が聞こえたかと思うと、僕に襲いかかってきた生物に火の矢が刺さり、その生物は燃え尽きた。

僕が呆気に捕らわれていると、中年ぐらいのフードをかぶった男が現れ、「リカバリーリー」と唱えると、僕の傷は徐々に治っていき、傷跡がなくなつた。

僕があまりの驚きに再び呆気に捕らわれていると、男が「魔法に驚いているようだが、どうした？」と言つてきたため、僕が別世界から來たことを伝えると、男は、驚いたが、冷静になり、この世界についての話しぶ話をした。

別世界？

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を開拓する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うことにした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたつて普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

この世界について。（前書き）

フードの男によると、この世界はパレット、シーク、アバ、と呼ばれる三カ国から出来ているらしい。

また、この世界では、僕がいた世界とは違い、魔法が存在しているらしい。魔法には、火、水、風、土、雷、の五大属性と光や闇、時、創などの特殊属性が存在し、特殊属性を持つている人は指で数えられるぐらいしかいないうらしい。

また、魔法にもランクがあり、初級魔法、中級魔法、上級魔法、最上級魔法、古代魔法があるらしく、ランクが上がるごとに必要な魔力が増えるらしい。

また、魔物にもランクがあり、S S S S ~ Eまであり、さっきの生物はBらしい。

また、この世界には、ギルドと呼ばれる魔物を狩る為の組織があり、これもS S S S ~ Eまでにランク付けされているらしく、僕を助けた男はS Sランクで、名前はビスだそうだ。

この世界について。

2100年人口の急激な増加により、人類は土地不足に悩まされていた。

そこで、世界中の科学者達がこの問題を開拓する方法を考えていたところ、ある科学者がこの世界を捨てて別世界に移住すればいいではないかという考えを提案した。しかし、それはあまりにもリスクを伴うため、実験台としてその科学者の息子を使うこととした。

そう・・・僕だ。僕は八神翔、16歳。父を科学者に持つ以外いたつて普通の高校一年生。母を小さい頃亡くしているため、料理はじぶんでやっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5832k/>

デーモンキラーズ

2010年10月28日05時36分発行